

2025 年 5 月 30 日 全 7 頁

Indicators Update

2025 年 4 月 鉱工業生産

生産用機械工業などの減産で 3 カ月ぶりに低下

経済調査部 エコノミスト 中村 華奈子

[要約]

- 2025 年 4 月の生産指数は前月比▲0.9%と 3 カ月ぶりに低下したが、コンセンサス対比で見れば小幅な低下にとどまった。生産用機械工業や輸送機械工業（除、自動車工業）などの減産が全体を押し下げた。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。
- 先行きの生産指数は、均して見れば横ばい圏で推移するとみている。米トランプ政権による関税政策の不確実性は高いが、現時点では関税政策が日本経済に及ぼす悪影響は限定的とみている。ただし、海外経済が大幅に落ち込めば輸出の減少を通じて生産指数が押し下げられるリスクがある。関税政策の動向は引き続き注視する必要がある。
- 2025 年 6 月 6 日公表予定の 4 月分の景気動向指数は、先行 CI が前月差▲3.8pt の 104.3、一致 CI が同▲0.5pt の 115.4 と予想する。この予測値に基づくと、4 月の基調判断は機械的に「下げ止まり」に据え置かれる。

図表 1： 鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2024年				2025年					
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
鉱工業生産	+0.7	+1.8	▲1.7	▲0.3	▲1.1	+2.3	+0.2	▲0.9		
コンセンサス								▲1.4		
DIR予想								▲1.7		
生産予測調査									+9.0	▲3.4
補正值(最頻値)									+5.2	
出荷	+0.8	+1.2	▲1.6	+0.0	▲1.0	+3.0	▲1.8	+0.2		
在庫	+0.2	▲0.1	▲0.8	▲0.3	+1.5	▲1.7	+1.2	▲0.5		
在庫率	▲3.4	▲0.1	+1.6	▲1.0	▲0.4	▲3.5	+4.4	+0.2		

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】生産用機械工業や輸送機械工業（除．自動車工業）などが減産し3カ月ぶりに低下

2025年4月の生産指数は前月比▲0.9%と3カ月ぶりに低下したが、コンセンサス(同▲1.4%、Bloomberg 調査)対比で見れば小幅な低下にとどまった。内訳を見ると、生産用機械工業や輸送機械工業(除．自動車工業)などの減産が押し下げ要因となった。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。

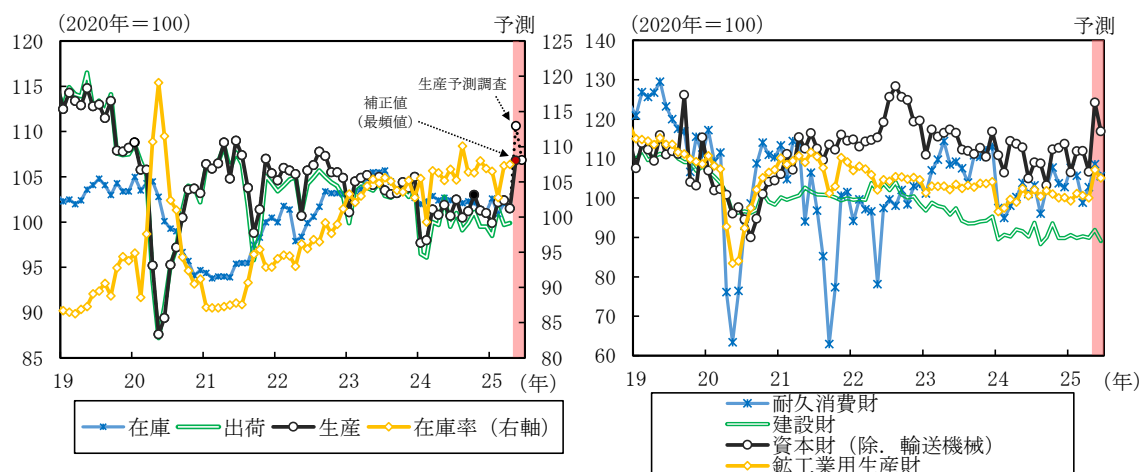
生産指数を業種別に見ると、15業種中6業種が前月から低下した。生産用機械工業(前月比▲8.7%)は3カ月ぶりに低下した。品目別に見ると、フラットパネル・ディスプレイ製造装置(同▲65.3%)や繊維機械(同▲51.5%)などが減産となった。経済産業省「鉱工業出荷内訳表」によると、生産用機械工業は輸出向け(同▲11.8%)、国内向け(同▲12.1%)のいずれも落ち込んでいる。輸送機械工業(除．自動車工業)(同▲7.0%)では、航空機用機体部品(同▲17.8%)が減産となった。他方、電子部品・デバイス工業(同+5.4%)など8業種は前月から上昇した。電子部品・デバイス工業では、電子回路基板(同+6.3%)やモス型IC(ロジック)(同+9.8%)などが増産となった。経済産業省「鉱工業出荷内訳表」を見ると、電子部品・デバイス工業は輸出向け(同+1.9%)、国内向け(同+20.2%)のいずれも上昇している。また、汎用・業務用機械工業(同+3.4%)では、コンベヤ(同+139.5%)などが増産となった。

財別に見ると、耐久消費財(前月比+3.9%)は上昇した一方、資本財(除．輸送機械)(同▲4.7%)と非耐久消費財(同▲2.2%)、生産財(同▲0.3%)、建設財(同▲0.4%)は低下した。

【出荷・在庫】出荷指数は2カ月ぶりに上昇

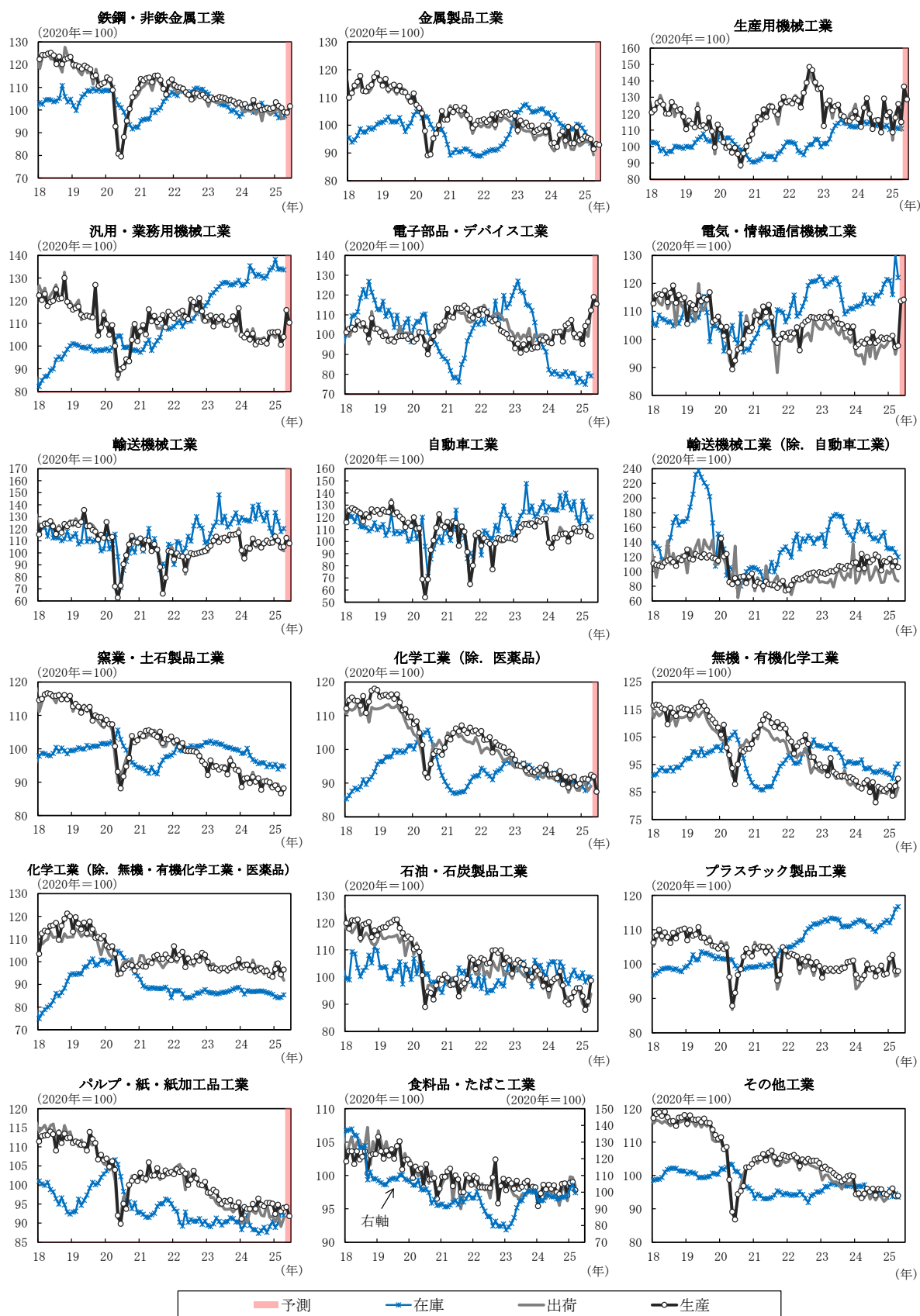
2025年4月の出荷指数は前月比+0.2%と、2カ月ぶりに上昇した。業種別では、電子部品・デバイス工業(同+14.1%)や電気・情報通信機械工業(同+4.2%)など、15業種中9業種が上昇した。財別に見ると、建設財と非耐久消費財、資本財(除．輸送機械)は低下した一方、生産財と耐久消費財は上昇した。在庫指数は同▲0.5%、在庫率指数は同+0.2%となった。

図表2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



(注) 生産指数の予測値(赤色)は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

図表3：業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業 (除. 医薬品) の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】均して見れば横ばい圏で推移も、米国の関税政策の動向は引き続き注視が必要

先行きの生産指数は、均して見れば横ばい圏で推移するとみている。米トランプ政権による関税政策の不確実性は高いが、現時点では関税政策が日本経済に及ぼす悪影響は限定的とみている。

米トランプ政権は2025年4月2日に相互関税政策を発表した。4月5日以降、各国・地域に対して一律10%のベースライン関税が課されているが、日本などを対象とした上乘せ税率については現在適用が一時停止されており、米国との関税交渉が行われている段階だ。当社では、対米交渉の進展もあって、米国による関税率の大幅な引き上げは回避されると想定している¹。日本経済への悪影響も限定的なものにとどまるだろう。

だが、関税政策の影響で海外経済が大幅に落ち込めば、日本からの輸出が減少し、生産指数が押し下げられるリスクがある。また、関税政策を受けて、自動車業界では米国への生産移管や現地工場での増産が行われる可能性もある。米政権は、自動車や関連部品に対して追加関税を適用しているが、こうした関税政策は自動車メーカー各社の業績を大きく圧迫する見通しだ²。既に一部のメーカーは、米国向け生産の一部を日本から現地に移転することを決定しているが³、こうした動きが他メーカーにも広がれば、国内生産に悪影響を与える可能性もある。関税政策の動向や国内外の経済活動への影響は、引き続き注視する必要がある。

製造工業生産予測調査を見ると、2025年5月の生産指数は前月比+9.0%と見込まれている。業種別では11業種中8業種が上昇する見通しである。生産用機械工業（同+18.8%）では半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置などの増産が見込まれるほか、電気・情報通信機械工業（同+16.3%）や輸送機械工業（同+7.0%）などの上昇が見込まれる。ただし、実際の生産指数は予測値よりも下振れする可能性がある。生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）⁴で見ると、5月は同+5.2%と見込まれている。前月比で+9.0%という大幅な増産計画は、やや割り引いてみる必要があるだろう。他方、2025年6月の生産指数は同▲3.4%となる見通しだ。業種別では11業種中8業種が低下する見込みだ。輸送機械工業（同▲4.0%）では乗用車などの減産が見込まれるほか、生産用機械工業（同▲5.7%）や化学工業（同▲4.9%）なども低下が見込まれる。

¹ 詳細は、熊谷亮丸他「[第225回日本経済予測](#)」（大和総研レポート、2025年5月22日）を参照。

² JETRO「[日系自動車メーカー6社、2025年度業績に及ぼす関税影響の見通しを公表](#)」（2025年5月21日）

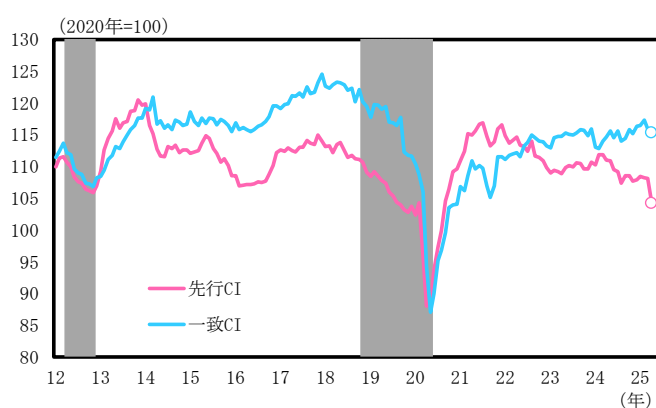
³ NHK「[ホンダと日産 現地向け生産の一部 日本からアメリカへ移管](#)」（2025年4月16日）

⁴ 生産計画は生産実績よりも上振れした値となることが多いため、生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）が公表されている。

【25 年 4 月景気動向指数】先行 CI、一致 CI とともに低下を見込む

鉱工業指数の結果を受けて、2025 年 6 月 6 日に公表予定の 4 月分の景気動向指数は、先行 CI が前月差▲3.8pt の 104.3、一致 CI が同▲0.5pt の 115.4 と予想する（図表 4）。先行 CI では構成指標のうち、消費者態度指数や日経商品指数（42 種総合）、東証株価指数などが悪化した。一致 CI では構成指標のうち、投資財出荷指数（除輸送機械）や輸出数量指数、商業販売額（卸売業）（前年同月比）などが悪化した。この予測値に基づくと、4 月の基調判断は機械的に「下げ止まり」に据え置かれる。

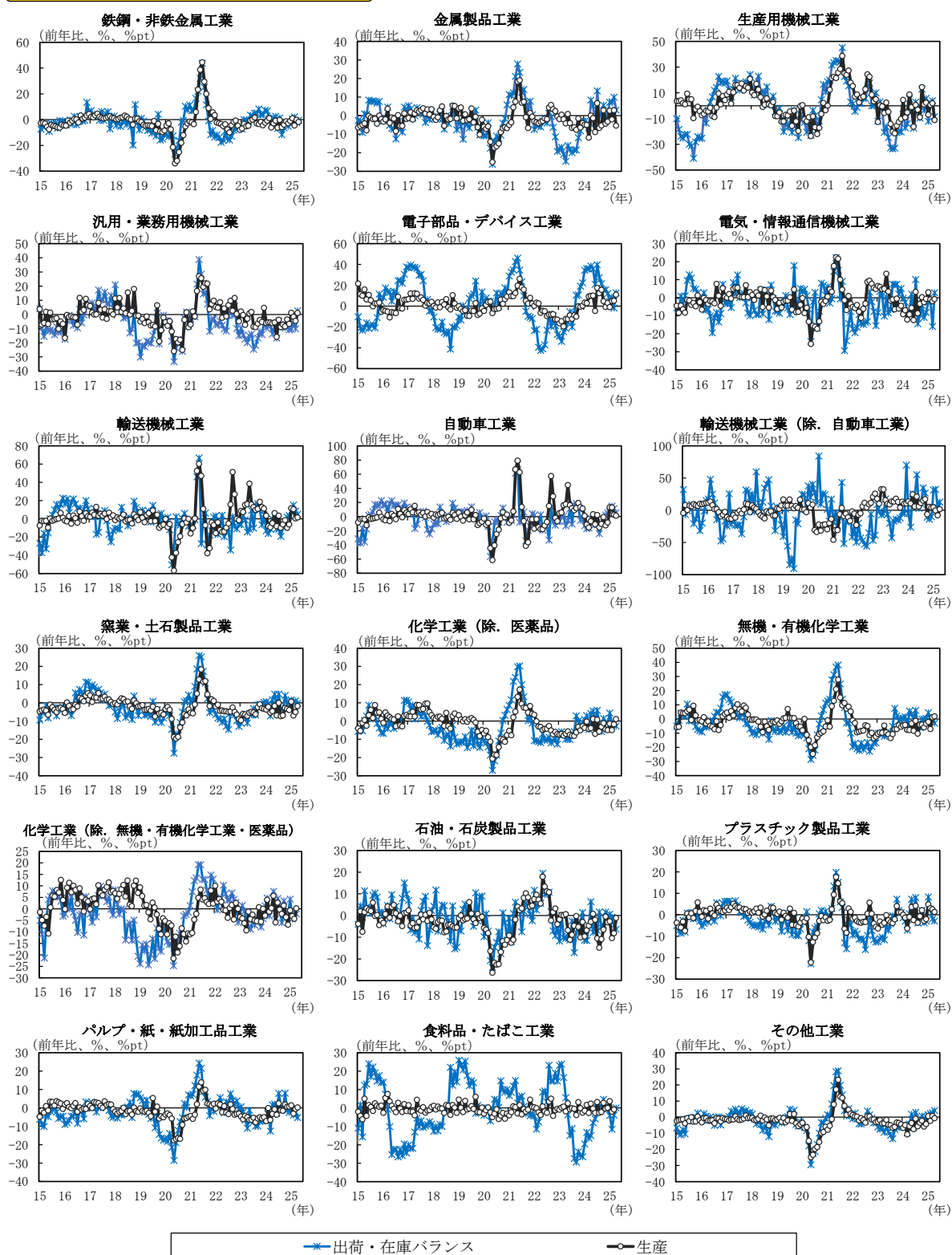
図表 4：景気動向指数（先行 CI、一致 CI）と基調判断の推移



(注) 左図の直近は大和総研による予測値。シャドーは景気後退期。
右図の2023年4月以前の基調判断は2015年基準による。2025年4月は大和総研予想。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

基調判断		基調判断	
2024年1月	足踏み	2025年1月	下げ止まり
2024年2月	下方への局面変化	2025年2月	下げ止まり
2024年3月	下方への局面変化	2025年3月	下げ止まり
2024年4月	下方への局面変化	2025年4月	下げ止まり
2024年5月	下げ止まり		
2024年6月	下げ止まり		
2024年7月	下げ止まり		
2024年8月	下げ止まり		
2024年9月	下げ止まり		
2024年10月	下げ止まり		
2024年11月	下げ止まり		
2024年12月	下げ止まり		

業種別 出荷・在庫バランスと生産



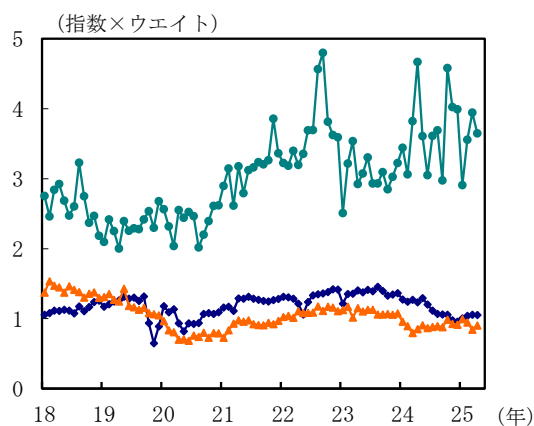
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

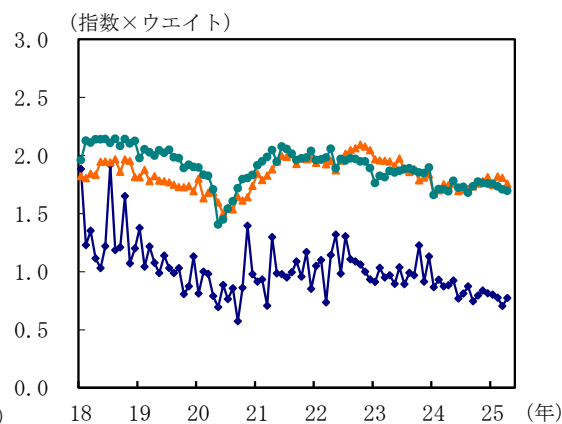
主要産業の生産動向(季節調整値)

生産用機械



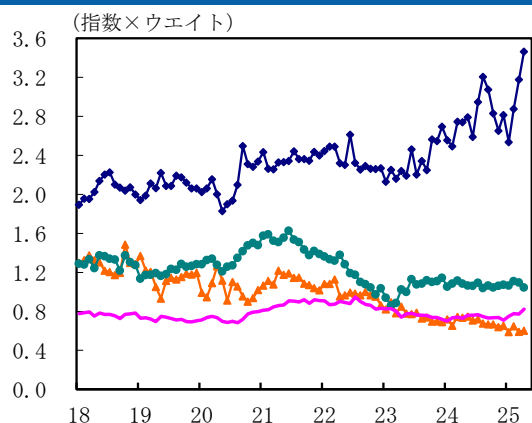
建設・鉱山機械
金属加工機械
半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置

汎用・業務用機械



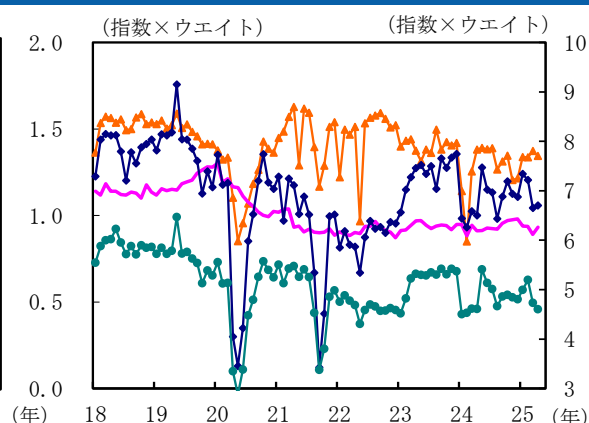
ボイラ・原動機
ポンプ・圧縮機器
汎用機械器具部品

電子部品・デバイス



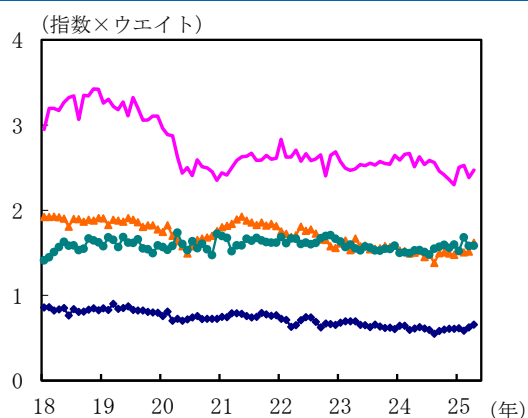
集積回路 (IC)
電子デバイス
電子部品
電子回路

輸送機械



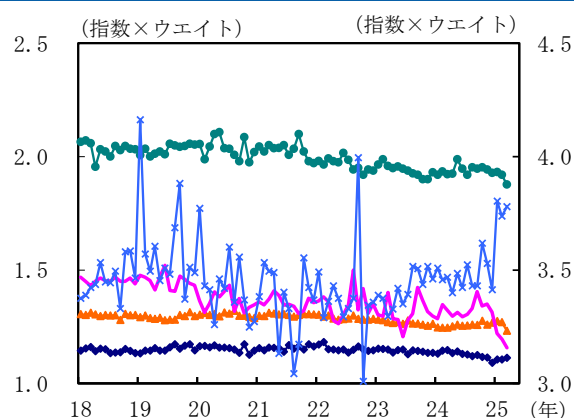
トラック
船舶・同機関
乗用車 (右軸)
車体・自動車部品 (右軸)

化学



石油化学系基礎製品
プラスチック
洗剤・界面活性剤
化粧品

食料品・たばこ工業



肉加工品
乳製品
パン・菓子
酒類 (右軸)

(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成